



TOPPANエッジ セキュアなデータ統合 プラットフォームを構築し サイバーレジリエンスの強化と 運用コスト削減に成功

TOPPAN

業種
製造

ユースケース
バックアップ&リカバリ

COHESITYソリューション
DataProtect

HPE Solution
HPE ProLiant DL380 Gen10 for Cohesity

ワークロードの保護
VMware vSphere、Oracle DB、ファイルサーバー

ソリューションパートナー
日本ヒューレット・パッカード合同会社

主な導入メリット

- 複数のバックアップシステムをシンプルに統合することに成功
- 約20時間掛かっていたバックアップ時間を約3時間に短縮
- 不要になった設備を撤去することで数千万円規模のコスト削減が可能に

TOPPANエッジでは、サイバー攻撃や万一のシステム障害等に備えるべくデータ保護に力を注いでいます。しかし従来の環境では、個々の業務システムごとにバックアップシステムが構築されており、運用管理の煩雑化やコスト増大など様々な課題が生じていました。そこで同社では、こうした状況を解消すべく Cohesity DataProtectによるセキュアプラットフォームを構築。その成果について、TOPPANエッジの上田 栄一氏、井上 宗弘氏、佐藤 輝久氏に話を聞きました。



TOPPANエッジ株式会社
IT統括本部
ITマネジメント本部
本部長

上田 栄一氏



TOPPANエッジ株式会社
IT統括本部
ITマネジメント本部
ITインフラ部
第四チーム
チームリーダー

井上 宗弘氏



TOPPANエッジ株式会社
IT統括本部
ITマネジメント本部
ITインフラ部
第四チーム

佐藤 輝久氏

課題

「人を想う感性と心に響く技術で、多様な文化が息づく世界に」のパーパスの下、社会課題の解決に向けた事業を幅広い領域で展開する TOPPAN グループ。その中核企業の一社として、「情報」を核としたビジネスを手掛けているのが TOPPAN エッジです。同社では、「インフォメーションソリューション事業」「ハイブリッド BPO 事業」「コミュニケーションメディア事業」「セキュアプロダクト事業」の4つの主力事業に加えて、社会環境変化に先駆けた新サービスの創出も意欲的に推進。長年にわたり培った知見と最新のデジタルテクノロジーを組み合わせることで、顧客企業のビジネス変革を強力に牽引しています。

中でも注目されるのが、ユーザー企業から預かった顧客情報などを元に、各種通知物の制作から封入・封緘、発送までを一貫して行う「データ・プリント・サービス」(以下、DPS)です。国内最高レベルのプリント設備や DPS 事業の第一人者としてのノウハウなどが高く評価され、この分野でトップクラスのシェアを誇ります。TOPPAN エッジ IT 統括本部 IT マネジメント本部 本部長 上田 栄一氏は「多くのお客様にご活用頂いている DPS ですが、近年では紙の通知物からデジタル

”

「セキュアなデータ統合プラットフォームを導入したことで、バックアップ／リストアにまつわる課題を効果的に解消できました。ランサムウェアなどの脅威が深刻化する中、サイバーレジリエンスの強化が図れたことも、今回の取り組みの大きな成果といえます」

TOPPANエッジ株式会社 IT統括本部
ITマネジメント本部 本部長 上田 栄一氏

通知へのシフトも進みつつあります。我々が担当する DPS のシステムインフラは、そのハブとしての役割も担うこととなりますので、デジタル化に向けた取り組みも積極的に推進しています」と語ります。

重要な顧客情報を取り扱うサービスだけに、情報セキュリティの確保にも細心の注意を払っているとのこと。「特に最近では、ランサムウェア感染などのサイバー攻撃が大きな社会問題となっています。当社としても、サイバー攻撃リスクへの対策として、複数の防御層を重ねた多層防御を実施。また、組織的対策として CSIRT などを設置することで、迅速なインシデント対応が行えるようにしています」と上田氏は続けます。ただし、その一方で、既存のデータ保護環境については、改善すべき点もありました。

元々、同社では、万一のシステム障害やマルウェア感染などに備えるべく、バックアップシステムを整備しています。しかし従来の環境は、システム面でも運用管理の面でも、多くの課題を抱えていました。TOPPAN エッジ IT 統括本部 IT マネジメント本部 IT インフラ部 第四チーム チームリーダー 井上 宗弘氏は、以前の状況を「DPS のインフラは、複数の仮想化基盤や物理サーバーなど、様々なシステムで構成されています。従来はバックアップシステムについても、これらのシステムごとに構築されていたため、結果的にサイロ化が進んでしまっていました」と振り返ります。

たとえば、バックアップデータの保存先は、バックアップ専用ストレージやテープライブラリ装置、小規模 NAS 装置と、種類の異なる複数の機器が混在。また、バックアップソフトウェアについても、ベンダーの異なる 5 つの製品が導入されていました。TOPPAN エッジ IT 統括本部 IT マネジメント本部 IT インフラ部 第四チーム 佐藤 輝久氏は「当然、それぞれのシステムごとに操作方法やバックアップ／リストア手順も異なってきますので、運用管理が煩雑な上に教育の手間なども増えてしまいます。特にテープライブラリ装置については、バックアップ取得中にリストア作業が行えない点もネックとなっていました」と語ります。

加えて、もう一つ大きな問題だったのが、バックアップの長時間化です。中には、バックアップ処理に 20 時間以上掛かるようなケースもあり、すべてのデータを日次でバックアップすることが厳しくなっていました。情報セキュリティの強化や業務データの確実な保護を目指す上では、こうした状況を一刻も早く改善する必要があります。そこで今回、同社では、分散したバックアップシステムを統合できるセキュアなデータ統合プラットフォームの構築に挑むこととなりました。

ソリューション

セキュアなデータ統合プラットフォームの導入にあたっては、まず将来

的なマイグレーションが容易に行えることが要件として掲げられました。佐藤氏はその理由を「バックアップに限らず、システムには定期的なリプレース作業がつきものです。その際に、設定をすべてやり直す必要があるようだ、作業負担が非常に重くなってしまいます。過去にはこれで困らされたケースもありましたので、できるだけ簡単に移行できるソリューションを選びたいと考えました」と説明します。

さらに、ソリューションの使い勝手についても重視したとのこと。井上氏は「操作の難しい製品では、業務効率も下がりますし、属人化の問題も生じがちです。こうしたことを避ける上では、やはり分かりやすいインターフェースで直感的に扱えるものが望ましいと感じます」と語ります。

もちろん、ランサムウェア感染対策や大量のシステム群を高速にバックアップ／リストアできることは大前提です。今回のデータ保護対象となる DPS のインフラでは、前述の通り多数の仮想マシンを収容する大規模仮想化基盤をはじめ、多種多様なワークロードが稼働しています。これらを確実に、かつ迅速に保護すると共に、今後の増設にも余裕で対応できるだけのスケーラビリティが求められました。

これらの要件をすべて満たせるソリューションとして選ばれたのが、Cohesity DataProtect と「HPE ProLiant DL380 Gen10」を一体化したアプライアンス・ソリューションです。井上氏は採用の決め手を「Cohesity は先進的なアーキテクチャを備えたデータ保護製品であり、各種のセキュリティ機能や差分転送、圧縮・重複排除など、有用な機能を数多く有しています。また、当社では数多くの HPE ProLiant サーバーを導入しており、その性能・信頼性にも全幅の信頼を置いています。この両社の組み合わせは、セキュリティプラットフォームを構築する上で最適と判断しました」と語ります。

こうして導入された Cohesity DataProtect によるセキュアなデータ統合プラットフォームは、2022 年 2 月より本番稼働を開始。同社では、仮想化基盤を皮切りに、分散した旧バックアップシステムの統合作業を進めています。

結果

セキュアなデータ統合プラットフォームを導入したことで、同社の業務にも大きな改善効果が現れています。まず一点目は、複雑化したバックアップ運用の効率化／シンプル化です。井上氏は「これまでのように複数のバックアップソフトウェアを使い分ける必要がなくなりましたので、運用管理に掛かる負荷を大きく軽減できました。Cohesity DataProtect の

ユーザーインターフェースも大変優れており、すぐに使いこなせるとメンバーからも好評です」と満足感を示します。

懸案となっていたバックアップ時間についても、大幅な時間短縮に成功。佐藤氏は「もっとも効果の大きいものだと、これまで約 20 時間掛かっていたバックアップ処理を約 3 時間にまで短縮できています。おかげで、以前は週次でしか取れなかったフルバックアップを日次で取れるようになりました」と力強く語ります。以前の環境では、規定のバックアップウィンドウ内に処理が終わり切らずタイムアウトしてしまうようなケースもありましたが、現在ではこうしたことも全く起きなくなっています。

同様にリストアについても、作業効率を大きく改善できたとのこと。「とにかく操作が簡単になったのがありがたいですね。以前使っていたバックアップソフトの中には、リストア対象のサーバーをその都度登録しなくては行けないなど、作業が大変面倒なものもありました。その点、Cohesity DataProtect は、リストアしたいサーバーを検索してそのまま処理を実行するだけです」と佐藤氏。リストアのスピードも各段に早くなっているため、万一大規模なトラブルが発生した場合も、旧環境の 1/2 程度の時間で復旧できるだろうと続けます。

これらのメリットに加えて、コスト削減の面でも大きな効果が現れています。セキュアなデータ統合プラットフォームへの移行完了後は、これまで使用していたバックアップソフトウェアのライセンス費用やデータ保存用ストレージの保守費用などが不要になります。これにより、最終的には 5 年間で数千万円規模のコストが削減できる見込みです。

「容量ベースでのライセンス体系が用意されているのも Cohesity DataProtect の良さですね。他社製品の中には、新たなサーバーを立てる度に追加ライセンス費用が発生するようなものもありますが、Cohesity DataProtect ならこうした問題に煩わされる心配がありません。ライセンス管理が非常に楽なので助かっています」と井上氏はにこやかに語ります。ここでは、Cohesity DataProtect の圧縮・重複排除機能も大きく貢献。現在同社の環境では、平均して 1/4 ~ 1/5、最大で 1/10 程度の圧縮・重複排除率を実現しています。これにより、導入したリソースを有効に活用できるのはもちろん、バックアップデータの保存に掛かるコストも最小限に抑えることができます。

柔軟なスケラビリティを備えていることも、大いに役立ったとのこと。井上氏は「仮想化基盤のリプレースも行った関係で、バックアップデータが急増したのですが、ノードを追加するだけで簡単に容量を増やすことができました。増設作業中も無停止で稼働を継続できたことも大変良かったですね」と語ります。現在は不要なバックアップの洗い出しなど運用の見直しを進めているところですが、将来的には対話型 AI アシスタントの「Cohesity Gaia」や、サイバー攻撃の検知・保護・復旧を支援す

る「Cohesity DataHawk」の活用なども検討していきたいとのこと。

加えて、見逃せないのが、ランサムウェア感染をはじめとするサイバー攻撃への対処能力を大きく引き上げることができた点です。Cohesity DataProtect は、すべてのスナップショットをイミュータブル(改変不可)な状態で保存するほか、データのロック機能や暗号化機能など、サイバーセキュリティ対策に役立つ機能を数多く装備しています。これらを活用することで、バックアップデータをより安心・安全な状態で保護することが可能になります。

「実際にセキュアなデータ統合プラットフォームの導入後、ランサムウェア感染が疑われるファイルを単一の管理インターフェースである『Cohesity Helios』が検知したことがあります。幸い、調査の結果問題はなかったのですが、このような場合にきちんとアラートが通知されるのは安心感が高いですね」と佐藤氏は語ります。

「脅威の侵入を 100% 防ぐことは難しい時代ですので、データをきちんと保護すると共に、早期に復旧できる仕組みが不可欠です。それだけに、今回の取り組みによって、サイバーレジリエンスを高められたことは大きな成果といえます」と上田氏は力強く語ります。同社では、顧客企業の DX を加速する新たなサービスを次々と世に送り出していく考えです。そのビジネスの安心・安全を、これからも Cohesity が下支えしていきます。

TOPPAN エッジが Cohesity の導入で得られた効果は以下の通りです。

- ・システムごとに運用していたバックアップシステムをシンプルに統合
- ・ランサムウェアによるバックアップデータ改ざんなどの被害防御
- ・直感的な操作性を活かし運用管理業務の属人性を解消
- ・バックアップ/リストアに掛かる時間やエンジニアリソースを大幅に削減
- ・圧縮・重複排除機能によりバックアップデータ容量を最大 1/10 に削減
- ・システムを停止させることなく容量増設を実施

TOPPAN エッジについて

印刷業大手として知られる TOPPAN グループの中核企業。トッパンフォームズと凸版印刷セキュア事業部との事業統合により 2023 年 4 月に現社名に変更。長年にわたりビジネスフォーム(帳票類)分野におけるリーディング・カンパニーとして着実な成長を遂げてきましたが、現在ではこれに最先端のデジタル技術を掛け合わせた新たなソリューションも提供。さらに、ライフケアやヘルスケア IoT などの領域へもビジネスを拡大しています。

詳しくは [Cohesity.com/jp](https://cohesity.com/jp) をご覧ください。

COHESITY

©Cohesity, Inc. 2024. All Rights Reserved.

Cohesity、Cohesity のロゴ、SnapTree、SpanFS、DataPlatform、DataProtect、Helios、Helios のロゴ、DataGovern、SiteContinuity、DataHawk、

およびその他の Cohesity のマークは、米国および/または海外における Cohesity, Inc. の商標または登録商標です。

HPE、HPE Apollo は、Hewlett Packard Enterprise 社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名および製品名は、関連する各企業の商標である可能性があります。

本資料は、(a) Cohesity と弊社の事業および製品に関する情報を提供することを目的としています。(b) 本資料が作成された時点では、真実かつ正確であると考えられていますが、予告なく変更されることがあります。

(c) 本資料は、「現状有姿」で提供されます。Cohesity は、いかなる種類の明示的または黙示的な条件、表明、保証も放棄します。

